



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はしがき
Author(s)	小内, 透
Citation	「調査と社会理論」研究報告書, 29
Issue Date	2013-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/52398
Type	other
File Information	AN00075302_29_pre.pdf



はしがき

本報告書は、ノルウェーとスウェーデンにおける先住民族・サーミの現状を明らかにしたものである。

世界の先住民族は、各国の近代化の過程で、同化と抑圧の対象となった。1970年代以降、先住民族の復権に向けた取り組みが進められ、長い議論の末、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が、2007年9月、国連総会において賛成多数により採択された。わが国も宣言の採択にあたり賛成票を投じた。宣言採択の翌年、2008年6月には、わが国の衆参両院において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で可決された。現在、2005年から始まった国連による第二次「世界の先住民の国際の10年」(～2014年)が進行中であり、世界各国で宣言を実質的なものとするための取り組みが求められている。それは、わが国においても同様である。

このような状況の下で、私たちの研究グループは、アイヌ民族の復権をめぐる議論の基礎資料を得るため、アイヌ民族の現状と課題、比較対象としての北欧の先住民族・サーミの現状と課題に関する4年間の社会学的な実証研究のプロジェクトを立ち上げた。プロジェクトの1年目にあたる本年度は、ノルウェーとスウェーデンのサーミに関する調査研究とアイヌの人々が多く居住する北海道新ひだか町における調査研究を行った。このうち、スウェーデンでの調査はすでに1年前から開始されていた別のプロジェクトと合流して行われた。

本報告書は、本プロジェクトの1年目の成果をもとにした中間報告のひとつである。アイヌ調査に関する報告書も『調査と社会理論』研究報告書30として、同時に刊行しているので、あわせて参考にしていただきたい。

本報告書のもとになった北欧調査にあたっては、本当に多くの方々にお世話になった。調査に協力していただいたスウェーデンとノルウェーのサーミ関係の皆様は厚くお礼を申し上げる。また、スウェーデン調査で通訳・翻訳をしていただいた三根子・フォン・オイラーさん、田中ティナさん、石濱実佳さん、ノルウェー調査で各機関との連絡を取っていただいた鶴沢加奈子さん、通訳の稲見麻琴さんにこの場を借りて感謝の意を表す。

(付記) 本報告書は、平成24～27年度の日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)(研究課題「先住民族の労働・生活・意識の変容と政策課題に関する実証的研究」、研究代表者・小内透、課題番号24243055)および平成23～26年度の日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)(研究課題「先住民族の教育実態とその保障に関する実証的研究」、研究代表者・野崎剛毅、課題番号23330247)にもとづく研究成果である。

なお、本研究は、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの第二期社会調査プロジェクトとしても位置づけられている。

北海道大学大学院教育学研究院
北海道大学アイヌ・先住民研究センター(兼務)
小内 透